

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑧放課後児童クラブに通う子どもの育成支援

- ◆ 児童期の遊びの運営指針は、休息・遊び・自主的な学習・おやつ・文化的行事等の取組や基本的な生活に関することなど、生活の全般に関わることが実施されています。その中で、子どもたちが仲間関係をつくりながら、自発的な遊びや生活の中で生じる意見の対立・お互いの考え方の違いに気づくことで、子ども自身が認識や感情の調整を図る能力を育てていくことが大切だと思いました。
- ◆ この研修で育成支援の内容・あり方・記録と事例検討の必要性等を学びました。日々の生活を振り返り、自分はしっかりできていたか、子どもたちに目配り、気配り、心配りできていたか、記録に見落としはなかったか、と自問しました。育成支援は子どもたちに深く関わる責任のある重要な仕事だと心にとめ、前向きに職場内での情報を共有し、育成支援の内証の充実・改善に努めていきたいと思いました。
- ◆ 遊びを学習より下に見る傾向にあります。そうではないことを学びました。遊びは大事だということが改めて分かりました。保護者によっては、学習に重点を置いている方もいるので、保護者の考えを聞いた上で、共通の認識を持って援助したいと思います。年齢の異なる子どもが、同一施設内で過ごすこととなります。発達段階に応じた遊びや生活の援助を心がけていきたいと思います。
- ◆ 子どもたちの普段の様子や他の人との関わり方を把握しておくことで、その日の心身の状態の変化に気づくことができるということを再確認できました。また、遊びや生活の中で生じるケンカなどについては、子どもたちの気持ちにしっかりと耳を傾け、みんなが安全に楽しく活動できるような環境づくりが大切だと感じました。職員同士や保護者との連携も大切にして、日常的・継続的な支援に取り組みたいと思います。
- ◆ 子どもの健全な育成と遊び、生活を支援するには、子どもや保護者と密接な連携を取り、理解・協力を得るよう共有していかなければならないと思いました。また、子どもが自ら進んで学童に通い続けるために、学童のことを関係機関に知ってもらい、学校や地域の人々と情報交換し、協力が得られるようにしていきたいと思いました。また、子どもたちが自分の気持ちや意見を表現できるような支援員との信頼関係を築いていきたいと思います。